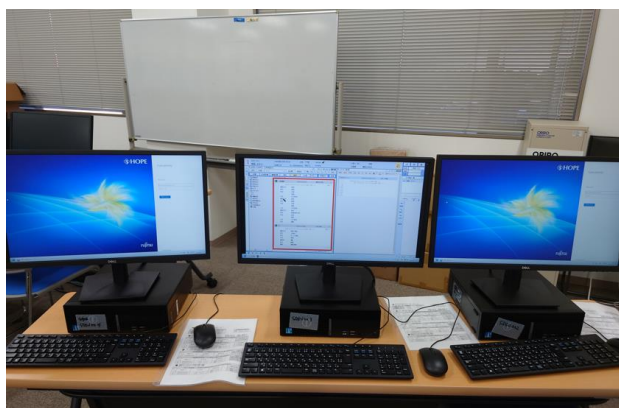


豊栄病院 ニュース

令和6年10月号

10月1日付けで、豊栄病院に新潟大学消化器外科学教室から、三浦宏平医師が赴任されます。これで消化器外科が3名体制になり、豊栄病院の腹部疾患に対応する診療・治療能力が向上するものと思います。後日、三浦医師には自己紹介をしていただこうと思っています。



写真上;多目的ホールに操作練習用に置かれた電子カルテのデモ機。職員は操作練習を行っています。

10月20日(日)10時から、新たに電子カルテの運用が始まります(システムの入れ替えのために10月18日22時から20日10時まで外来患者様の診療が困難になります。申し訳ありませんがよろしくお願いいたします。)。なお新システムに移行しますと、再来患者様の受付方法など患者様に多少影響が及ぶ変更があり、また医師も操作に慣れるまで診察に戸惑う事もあるかもしれませんが、可能な限りご迷惑をおかけしないように職員一同心がけますので、よろしくお願いいたします。また、10月6日(日)の13時から16時の間、豊栄病院は作業停電で、基本的に非常電源も入らず、通常診療ができない状態となります。患者様にはご不便をかけることとなりますが、ご了解ください。

新潟日報に9月下旬にシリーズで県立病院・厚生連病院の経営危機問題が取り上げられました。皆様には御心配をおかけしております。豊栄病院は、ここ25年間で24年間は黒字決算で厚

生連の病院の中では安定的な運営がなされています。しかしながら新潟県厚生連全体で見ると非常に厳しい経営状況となっており、このため実際、豊栄病院でも固定資産や設備投資費の一部カットや今冬のボーナスカットなど非常に深刻な対応を実行しています。新潟日報の記事の要約としては、「今年度、県立病院は43億円の赤字、厚生連病院が60億円超の赤字が見込まれ、経営危機が懸念される」というものです。ただしこれは、「県立病院には県の一般会計から年間100~150億円、厚生連には県や地元自治体から15~20億円程度の公費支援が入ったうえでの赤字で、県などの財政も厳しくこれ以上の財政支援は困難」という事です。「こうした事態で厚生連の賞与支給率は3.0か月にまで減らしていたのをさらに減額することが決定したのに対し、同じく経営状況がひっ迫している県立病院の職員の賞与は4.5か月を維持している」とも報道されました。「地域医療を守るためにも、県立病院と厚生連病院は人員や病床規模の見直しなど聖域ない改革が必要だが、調整は難航も予想され、改革がどこまで実現されるかは見通せない。」と結ばれています。



暗い話が多い中、明るい話題は、MBLの大谷翔平選手の活躍くらいでしょうか。

私、宮島はこの10月に66歳!!の誕生日を迎えます。早めの誕生日祝いとして、新潟県某所で松茸のフルコースランチを食し(写真上)、年に1度?の贅沢をしました。

発行責任者・文責;豊栄病院広報係 宮島 透

豊栄病院 (代表)

TEL 025-386-2311

FAX 025-386-2370

豊栄病院 患者総合支援センター

TEL 025-386-2801 (直通)、FAX 025-386-2784